

わがまちの未来を育む 福島高校

ふるさと申間を思う市民が集まり、
『福島高等学校を育てる市民の会』を設立しました。

申間市にある唯一の高校、『福島高校』。それは申間の未来であり、希望でもあります。その希望の光を絶やさぬよう、今年3月、申間の力が集結しました。『福島高等学校を育てる市民の会』（以下、「育てる会」）の発足です。福島高校をさらに盛り立てていくと、市民がともに立ち上がったのです。

地元で子供を育む利点

『申間市子ども会連絡協議会』会長の中村省吾さんには、3人のお子さんがいます。その3人全員が福島高校へ進学しました。お子さんの在学中には、PTA会長を務めるなどし、福島高校への思いもひとしおです。中村さんは福島高校について次のように話してくれました。

「7～8年前からでしょうか、商業科がなくなったこともあり、生徒数が減ってきました。そのころから、このまま減り続けたら…という不安が頭をもたげ始めました。地元には高校があるということ

は大きな利点があるのです。福島高校へ進学する『地元で育てること』なわけですから、間違いがありません。地域の人も生徒をよく知っている。生徒は周囲から温かく見守られているわけですから、親としても安心です。また、福島高校の生徒は、あいさつがとても立派。これはどこにも負けないと胸を張って言えます。福島高校の伝統といえるでしょう。あいさつだけでなく、生徒たちは物事へ取り組み姿勢も素晴らしい。樹祭や体育祭などを見ると一目瞭然です。そんな姿を多くの人に知っていただきたいです。市民間で広く交流できる機会があるといいですね。最近は施設面も充実し、今夏にはクーラーが設置される予定で

す。教育環境もずいぶん整備されてきました。福島高校へ行くということは、安心・安全・快適な環境の中で礼儀正しい子どもを育てる。地元の子どもは地元で育てることの利点がそこにあるわけです」

母校は心のふるさと

福島高校の生徒のあいさつについては定評があるようで、福島高校同窓会『潮会』の会長小原美智子さんも同じように語ってくれました。

「本当によくあいさつします。いい笑顔で、気持ちがかもったあいさつをしてくれるのです。あの笑顔をずっとずっと守りたい。あの礼儀正しさは、わが母校の誇りですから。近くにいと分らない

いもので、卒業して感じたことなのですが、母校は心の支えです。言わば『ふるさと』なのです。潮会の事務局には、東京や大阪からそのふるさとを思う激励の電話がよく入ります。その気持ちに伝えるためにも、福島高校をしっかりと支えていくつもりです。福島高校は伝統ある高校で、昭和2年に第1回の卒業生を送り出しました。同窓会会長として、その先輩方の刻んだ歴史と伝統をしっかりと受け継いでいかなければなりません。育てる会の発足を知り、皆さんが喜び『頑張ってくれ』と声をかけてくださいました。先輩方は、ふるさとへの輝きを心の支えにしているのです。母校生徒の皆さんがキラキラ輝けるよう、広く支援してい

たいと思っています」

福島高校は地域の活力

申間市PTA協議会の会長を務める山下芳数さんにも話を伺いました。

「申間市では、平成20年度から



申間市PTA協議会 会長 山下芳数さん
申間市中学校校長会 会長 八ヶ代俊夫さん (福島中学校校長)
福島高校同窓会潮会 会長 小原美智子さん
申間市子ども連絡協議会 会長 中村省吾さん

小中高一貫教育がスタートしました。教育だけでなく、PTAも小中高で連携してやっていくことを考えています。PTA協議会は、市内の小中学校PTAの組織です。そこに福島高校も加わってもらわいです。今年度はまず始めに、PTA大会で福島高校のPRや活動などを紹介してもらおうと計画しているところです。福島高校は、レスリング部がとても有名ですが、文化面でも活躍しています。放送部がNHK杯の朗読やアナウンス部門で全国大会へ出場しているという実績もあります。陸上競技でも部活動サポートシステムの支援を受け、矢野優友くんが走幅跳で陸上県記録会と県高校総体で優勝しました。そういったことも広く知っていただきたいですね。そうすると福島高校で『レスリングをしよう』とか『陸上をしよう』あるいは『放送部に入って全国大会を目指そう』という生徒も増えてくるのではないのでしょうか。そして全国大会に行くとなると街も活気づく。他の競技などでの活躍も増えればさらに盛り上がる。ひいては、福島高校が地域の活力になるわけです。福島高校を活性化する

ということ、広い意味で地域の活性化につながると思います。福島高校があるということは、そこに経済効果があり、にぎわいが生まれる。福島高校は、地域活性化になくしてはならない大きな存在だと思えます」

小中高一貫教育の大きな柱

小中高一貫教育がスタートし、早3年。小中高はどのように連携を深めてきたのでしょうか。

また、一貫教育の集大成となる福島高校の存在について、申間市中学校校長会会長を務める福島中学校の八ヶ代俊夫校長に話を伺いました。

「市内には11の小学校と6つの中学校があり、そして唯一の高校、福島高校があります。小中高一貫教育はこれらの学校が連携し、確かな学力の向上に取り組んでいきます。その効果を実感している取り組みに『乗り入れ授業』があります。これは英語と数学の2教科で、高校と中学の教員を相互派遣して授業するというものです。生徒が中学から高校へ進み、授業内容のギャップに戸惑わないための支援です。中学で教わった先生が高校

の授業に乗り入れてサポートしてくれるわけですから、生徒も心強く感じますよね。逆もまた然りで、入学前に高校の先生を1人でも知っているというのは大きな利点です。このほかに、夏休みには、小中高生が一緒に泊ってボランティアや地域探訪などの活動をしています。これらの取り組みの成果といえると思うのですが、小中高一貫教育を導入してから、市内に在籍する中学生の福島高校への進学率が増えました。小中高一貫教育の精神は確かに育まれているのです。教員生活32年を迎えるわたしですが、小中高がこれだけ密に連携している地域は他に見たことがありません。また、福島高校はちょうどいい学校規模です。教員の指導が行き届くので、生徒一人ひとりとしっかりと向き合うことができ、進学も就職も責任をもって面倒をみることもできます。これらのことは将来を考えたとき、小中学校生にとっても、精神的な大きな支えになると思います。市内18の小中高は『教育共同体』として、今後も連携を深めていきます。その頂点である福島高校は、教育の大きな柱です」